

令和6年度地方教育行政功労者表彰について

地方教育行政功労者として、本県では次の方々が文部科学大臣から表彰されます。

1 表彰の趣旨

地方教育行政において、その功労が特に顕著な教育委員会の委員等を文部科学大臣が表彰し、その功に報いるとともに、地方教育行政の発展に資する。

2 被表彰者

	氏名	主要経歴
市町教育委員会関係	こねもり なおこ 小根森 直子	現 三次市教育委員会委員 (教育長職務代理者)
	やまもと たかひさ 山本 剛久	現 神石高原町教育委員会委員 (教育長職務代理者)

3 被表彰者の概要

別紙のとおり

4 表彰式

- 令和6年10月10日(木) 12時20分から14時05分
- 文部科学省講堂(東京都千代田区霞が関3-2-2)

5 参考

この表彰制度は、昭和58年度に発足し、令和5年度までに本県からは、166名(県教育委員会関係19名、市町教育委員会関係147名)が表彰されています。

令和6年度 地方教育行政功労者表彰 被表彰者の概要

こねもり なおこ
小根森 直子

1 略 歴

平成18年 5月 14日 三次市教育委員会委員に任命
平成29年 5月 14日 三次市教育委員会委員（教育長職務代理者）に任命

2 功労の内容

(1) 功労全般

小学校教諭、英語講師としての経験を活かし、三次市教育委員として本市の外国語教育の充実や国際交流の発展に取り組んだ。

また、三次市教育委員とあわせ、財団法人三次市教育振興会理事（現在は公益財団法人三次市教育振興会評議員）、三次市教育奨学金貸付審査会委員として、三次市の教育奨学基金事業に取り組み、就任以来、卓越した識見をもって、三次市内の生徒・学生の育成に努めた。

(2) 学校教育の推進

本市の教育ビジョン、教育大綱、三次市教育振興基本計画の策定に携わり、社会の急速なグローバル化の進展の中での英語をはじめとする外国語教育の充実、ICT（情報通信技術）を活用したより質の高い教育の提供など、三次の特色を生かした教育の展開に努めた。

また、広島県立三次中学校・高等学校運営協議会委員を務め、小学校・中学校・高等学校と三次市内全体の教育の展開に努めた。

(3) 生涯学習の推進

平成11年4月から三次中央ロータリークラブ会員（令和元年度は会長）として、食育などを題材に、紙芝居や絵本を作成して、啓蒙活動を実施し生涯学習の推進に貢献した。

(4) その他

平成25年4月から公益財団法人奥田元宋・小由女美術館評議員を務め、市内の生徒・児童が芸術に触れる機会を提供するなど、文化・芸術振興に努めた。

令和6年度 地方教育行政功労者表彰 被表彰者の概要

やまもと たかひさ
山本 剛久

1 略 歴

平成 21 年 12 月 23 日	神石高原町教育委員会委員に任命
同 日	神石高原町教育委員会委員長に就任
平成 27 年 3 月 31 日	同 退任
令和 27 年 4 月 1 日	神石高原町教育委員会委員（教育長職務代理者）に任命

2 功労の内容

(1) 功労全般

神石高原町教育委員に就任以来、卓越した見識と指導力を発揮し、教育委員の学校訪問を実施するなど、教育委員会の活性化に努めるとともに、より良い教育環境をつくるため、学校再配置検討委員会委員として、平成 23 年に小学校、平成 26 年には中学校の統廃合に尽力した。

(2) 学校教育の推進

平成元年度に、文部省海外教育事情視察に参加し、オーストラリアに語学留学した。

平成 30 年度には、異文化を直接体験することを通して、国際理解を深めるとともに、国際性を養うため、神石高原町中学生海外交流支援事業や、英語暗唱大会、イングリッシュイマージョンプログラム等の国際交流活動の推進に貢献した。

また、令和 3 年度には、町内全小中学校に学校運営協議会制度を導入し、保護者、地域及び学校が一体となって児童生徒を育成する教育環境の整備に尽力した。

(3) 生涯学習の推進

人権教育では、人権尊重の精神に徹し、実践力をもった住民の育成を図り、地域や時代の実情に応じた学習を推進した。

平成 23 年度に、教養の町読書感想文コンクールの題材に「黒い雨」部門を導入するなど、平和教育に貢献した。

平成 29 年度には、生涯学習推進の拠点施設として設置されていた公民館を、新たなコミュニティの協働支援センターとして組織化し、地域全体をつなぎ、住民と行政の新たな協働の推進に尽力した。

(4) その他

保護司として 14 年間、罪を犯した人の更生と社会復帰を支援する活動に尽力した。

また、犯罪のない明るい社会実現のため、町内小・中・高等学校の生徒指導部会との連携や、児童生徒の意識高揚のための作文募集の事業を行い、地域へ貢献した。